芸振

大分県芸術文化振興会議会報

No.67　60・12

もくじ

高校生の文化活動 嶋津文雄……1
――特集 芸振加盟団体の活動――
大分人形劇サークル協議会 ……2
県俳句連盟・県民踊連盟……3
県音楽協会・県宣伝美術協会 ……4
私のダブルイメージ、木村成敏・県芸術祭……5
芸振主催事業・新人賞を受賞して川下博幸 ……6
市町村文化活動・新人賞を受賞して首藤詔子……7
スバルと人(その8)記録、お知らせ ……8

発行人・挟間正年　編集人・高塩　至

高校生の文化活動について

21世紀の文化創造の温床は高校生

大分県芸術文化振興会議副会長
大分県高等学校文化連盟会長
嶋　津　文　雄

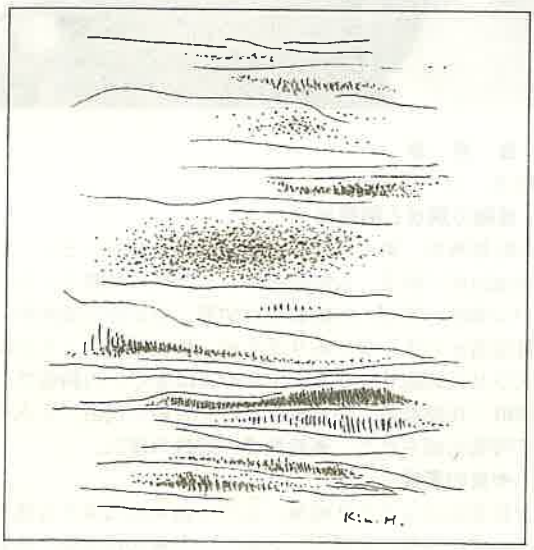
大分県教育委員会の「中学生・高校生の生活と意識に関する調査」によると、「あなたは、ひとことでいって学校は楽しいですか」の回答で中学生は楽しいが82%、楽しくないが14%、ところが高校生6校の抽出調査の結果、楽しいが61%に対して、楽しくないと受けとれる回答が33%と高い結果を見て、私ども教育者にとりまして考えさせられる問題でありました。

学校が楽しくないという要因は色々あると思いますが、その一つは、勉強は面白くない、何もしたくないといった無関心、無気力、無目的な高校生が増えているからだと思います。私は生徒に対し「高校では勉強をしっかりやってもらうことは大切ですが、一方実社会では点数であらわされない才能が生かされることも多いものです、物の考え方、行動力、責任感、趣味や常識の広さ、また、マナーなどが評価の対象になります。そのためには、体育活動、文化活動またボランティア活動など、何か一つでもよいから一所懸命にやってみなさい。」といっています。高校生がスポーツに打込み、また、文化活動に熱中することは、調和のとれた人格教育では大切なことだと思っています。

私は今年度、県下高等学校70校の文化活動を組織化した大分県高等学校文化連盟（高文連）をお世話するようになり、高校生のすばらしい文化的才能に接する機会に恵まれ感心させられています。先日の11月28日・29日に県芸術会館で第10回大分県高等学校総合文化祭を開催しました。これは高文連所属の各文化部門を代表する団体・個人を一堂に集めて、そのすぐれた文化活動の成果を発表する文化の一大フェスティバルでありますが、多彩で豊かな、熱気のあふれる大会が繰り広げられ、多くの高校生の感動と友情を深めることが出来て大変喜ぶと同時に、高校生の文化活動のすばらしさをあらためて認識しました。

今年は平松知事ご提唱の「新しい県民文化創造元年」でありますが、21世紀の文化創造の温床は高校生であると思います。高校生の時代に真剣に取り組めば、すばらしい才能や能力が発揮できますし、ひいては青少年の健全育成の観点からも重要な役割を果します。

高校生が気楽に絵を描いたり、歌を唄ったり、俳句を作ったりなどの文化活動の底辺が拡がるとともに、全国的にも通じる文化活動の水準の維持向上を願っています。そのためには指導者の確保や予算の充実が必要でありますので、関係者の一層のご理解、ご支援をいただき、より多くの高校生が楽しい学校生活だと思える魅力ある学校づくりをしていきたいと思っている次第です。



日名子金一郎（自由美術）

特集 芸振加盟団体の活動

文化団体待望の芸術文化基金も６年の年月をかけ、61年より完全実施されることになった。基金事業計画にもとづき幅広い活動が期待されるわけである。ではその構成団体の活動の現状はどうなっているのか――どのような組織で、どのような活動をしているのか、それぞれの団体に次のような項目で現状を書いていただいた。(1)会の目的　(2)活動の概略　(3)現状と展望　(4)会員数……など（掲載順は、一応県単位の団体、大きい団体からとし、各号で数ジャンルを載せていく予定である。）

大分人形劇サークル協議会〈演劇〉

県人形劇フェスティバル
を中心に県下各地を
巡　回　公　演

事務局長　福　崎　寿　雄

(1)　会の目的

各サークルとその会員がお互いに仲よく手をにぎりあって、人形劇の技術をたかめ、児童文化の向上と人形劇の真価を世に広め、普及発展に尽くすことを目的とします。

(2)　組織の概略

県内の人形劇サークル、又は人形劇を愛する人で組織する。

(3)　会　員　数

86名（11月10日現在）

(4)　活動の現状と問題点

芸術祭参加、県人形劇フェスティバルを中心とし、県下各地巡回子供会、人形劇研修会、九州人形劇フェスティバル参加、外国人形劇公演見学等、会員各自活動中。会員定着がいま一歩でありますが、第21回県フェスでは、別大ＯＢ人形劇サークル「ふるやんぼるど」の指導で、野津町「民話教室」の児童による「吉四六民話」が人形劇で特別公演された。運営面での財政の確立。

(5)　今後の展望

会員相互はもとより地域における諸文化団体とも連携を深め文化活動の多様化に対処し、児童文化活動の発展に寄与したいと思います。

特集　芸振加盟団体の活動

大分県俳句連盟〈文芸〉

有季定型俳句者の
みんなが参加できる俳句連盟へ

事務局長　工　藤　芳　久

(1)　会の目的

「本会は有季定型俳句の普及向上につとめ、以て詩情豊かな人材の育成に努めることを目的とする」と第2条にうたわれる如く、県下同好者の幅広い団結と作品の競演にある。

(2)　組織の概要と現況

イ）42年　第1回俳句大会の開催
ロ）46年　大分県俳句連盟の発足
ハ）53年　合同句集「一人二句集」第1編
ニ）56年　大分県俳句新入賞の新設

現在会員は570名、大会参加者は300名、「一人二句集」への投句者は489名に達している。最近俳句への関心が高く、公民館活動等、子育て卒業者、初老者の参加は目を見張るものがある。県下各地の指導者の奮起を望みたい。

(3)　今後の展望

「一誌にとらわれず、広く有季定型同好者を」というのが吾々の願いであり、この線で進んできている。しかし、現実は仲々思うにまかせず、県内を対象するもの、全国誌の流れをくむもの等々、多数の俳人が散在している。いつの日かこれらの人々が一堂に会して、本当の知事賞その他が決定される日を望んでやまない。

大分県民踊連盟〈舞踊〉

「一村一品音頭」の発表普及に努める

事務局長　伊　坂　香　里

現在、大分県民踊連盟には、大分市を中心に県下より、22団体が加盟しており、郷土民踊の保存育成、普及発展に、また県民文化の昂揚に努力致しております。

その他、県下各地で、温泉祭り、運動会、文化祭等地域自治体と一体となっての、ふるさとづくり運動、心のふれあう地域づくりにも、ささやかではございますが、貢献しております。

昨年「一村一品音頭」の振り付けを行い、発表、普及にと努めてまいりましたが、レコードが出来なかったため、末端への浸透も今一歩の感がございましたが、お陰さまでレコード化も具体化しつつありますので、これからは更に県下各地に、この一村一品音頭を広め、普及に努めて参りたいと思います。

11月10日皇太子殿下、美智子妃殿下をお迎えして開催されました第5回大分国際車椅子マラソン大会では、大分市民踊連盟150名が参加し、〝一村一品音頭〟〝鶴崎おどり〟〝関の鯛つり唄〟をご披露し、大会に花を添えることができました。

加盟団体が参加した60年度の主な行事は次の通りです。

○4月29日　中山流発表会
○9月29日　日本民踊研究会民踊まつり
○10月1日　第21回県芸術祭開幕行事(地方公演)
　　佐伯公演　豊後のおどり30周年記念公演
　　筑紫流発表会
○10月27日　大分合同民踊の祭典
○11月23日　大分県民謡研究会
　　ふるさとの唄を求めて（賛助出演）

その他各地区の文化祭行事は省略致します。

来年11月2日には、県芸術祭行事に参加し、県踊連の発表会を予定しております。

〝一村一品音頭〟等新しく発掘した大分県民踊の発表を中心に県22団体が、日頃の研究の成果を発表致します。

特集 芸振加盟団体の活動

大分県音楽協会〈音楽〉

県民のための
県民による演奏会をもち
更に地方文化の
育成をはかりたい

事務局長　山　本　勝　彦

音楽協会は大分県音楽界の向上のため相互に協調し、県民文化の発展に寄与することを目的としています。またこの目的を達成するために、新入紹介演奏会、大分県音楽コンクール、協会演奏会、協会員による研修会等、その他必要な音楽文化向上のための諸事業への協力も行っています。

組織については、個人会員と団体会員と賛助会員からなっていて、個人会員はピアノ、声楽、管楽器、弦楽器、作曲、楽理、教育の６部門で、団体会員は、オペラ協会、大分交響楽団、現代篇曲、県響アンサンブル、管楽器指導者グループの団体で組織されています。

役員については各部門２～３名で団体役員を含めて28名です。会員数は個人会員200名を越え団体会員数を含めると、相当な数になります。本年度の行事をふりかえってみますと、毎年の新人紹介演奏会の出演者も定着し、第17回を終了しました。大分県音楽コンクールも第13回を終了し、第１回からの出演者総数も２,000名をオーバーしました。この出演者の中には、すでに中央また外国で活躍しています。また個人会員のリサイタル、ジョイントを含めると当初の目的は充分達成出来ていると思います。最近は、中央のオーケストラ（大阪フィルハーモー、東京交響楽団）等の協演をする演奏家（会員）もふえ、中央との交流もなされつつあります。

今後、音楽協会は一層地方文化の育成に努力するとともに会員相互の和を広げ協会員による大合唱、オーケストラとの演奏会を盛大にもちたいと思っています。

大分県宣伝美術協会〈美術〉

(1)　会の目的

県内に在住するグラフィックデザイナーの集団で、日常携っているグラフィックデザインの研鑽を通じ、より深い地域社会との連携を計り、豊かな創造的消費文化の向上に寄与・貢献する。

(2)　組織の概略

会長１名、副会長１名、事務局長１名、会計２名、委員若干の役員で構成する。

(3)　会　員　数

昭和60年現在45名。

(4)　活動の現状と問題点

年１回（主に秋期）定期作品展を開催。これは会員展が原則だが、ある時期必要と認められる場合公幕展を開き底辺の拡大と新人の発堀を心がけている。

グラフィックデザイナーは、ある程度の水準に達するまで基礎的レッスン期間をかなり要することから、他のジャンルと同一視ができない。従って毎年公幕展の意義を感じながらその実現の困難さを痛感している。

(5)　今後の展望

グラフィックデザインは即生活デザインである。形式的な展覧会だけの存続だけは本来の目的から逸脱する。

一村一品運動を側面的に
盛りあげる仕事に……

会　長　波多野　義　孝

目まぐるしく変ぼうする現代社会の〝いま〟を把握し、むしろリードする気構えをもたなければならない。

県が提唱する一村一品運動の上昇気運を側面的に助長するのもグラフィックデザイナーの仕事でもあると考える。

今後ますますデザインも広域市場の中で十分もち応え得るバイタリティーが要求されてくる。それに通用するグラフィックデザイナーの輩出が会の使命でもある。

私の ダブルイメージ

芸振理事
新世紀群ＯＢ
木村成敏

敗戦のパニックからどうやら立直ろうとした1925年、公務員、会社員、農民、業者などを中心にした民主的な美術サークル〝新世紀群〟が生まれました。

そして今年は丁度35周年の節目にあたるので何とか記念展をやりたいというよびかけをしたところ東京在住のＯＢが全面的に賛成、吉村益信、堤延樹、磯崎新、三浦勉などが力作、大作を送ってくれたし、尾辻克彦が画家赤瀬川原平の側面を、東宝映画ゴジラの特撮で活躍した立川博章が設計家としての図面を送ってくれました。北海道からは樹氷造形で有名になった竹中敏洋が発泡スチロールに着色造形した小品２点を出品してくれました。

新世紀群35周年記念展は歩みを物語る第１室と、現代を問う作品地元大分で35年の歩みをつづけている人達の作品や協力、賛助の花、俳句、写真の出品などふくめて予想以上の成功をおさめました。

これと合わせて東京在住のＯＢによる記念誌〝ＺＩＮＣ　ＷＨＩＴＥ〟1,500部が、文筆業雪野米弘と印刷屋の牧ミツエの献身的な努力によってうまれました。この記念誌は私的な文集ではなく当時の社会的背景、復興する大分の文化的、政治的情況の中で夫々の絵画とのかわり合いをリアルに表現しており、捜入されたスナップ写真も同世代人への共感をよぶものでした。

この本を贈呈した人々からは感動的な反応がありました。ＮＨＫの女性アナウンサーの日野直子さんは〝ふるえる感動で一気に読みました〟と早速インタビューや、ドラマにぜひやってみたい。日本童話会会長の後藤揚根先生は、〝大変いいことだ、初心を忘れるな〟と激励してくれました。35周年の記念行事は単なる懐古趣味でなく現代にいろいろの意味をのこしてくれたと思っています。

現代大分県下では未だかっていない芸術・文化の創作や運動が活発に展開されていますが、果たして現状がよろこぶべき方向に進んでいるのか、表面的なニギニギしさや自己のみの満足感にひたって気宇壮大なロマン、原点に立ちもどって人生を、生きることを追究する芸術・文化の創造活動が弱いのではないか。勿論35年前と現在とでは大きな違いがあると思いますが、〝生命は短し、芸術は永し〟をこの際思い返す必要はないでしょうか。〝四極山彫刻の森〟〝二宮美術館〟の建設と新世紀群の歩みがダブルイメージとなってこんなことを考えました。

第二十一回県芸術祭の表彰式が去る十二月二十日県婦人会館で行われた。

今回から開幕公演が大分以外の地域で行われることになり、今年度は佐伯文化会館で伊坂舞踊研究所筑紫会による「民踊・豊後の踊り」が公演され、初の試みとして大成功をおさめ芸術祭賞を受賞した。その他主催行事である県民オペラ「吉四六昇天」・県民演劇「迷路」・県美協「第二十一回県美展」がそれぞれ充実した内容で県民文化に貢献したことで芸術祭賞を受賞した。

また、功労賞として今年は故人をふくめ四人の個人と一団体が表彰され芸術祭の幅広い分野における地道な活躍が評価された。

新人賞としては県民演劇の川下博幸氏県美協日本画の首藤詔子さんが次代を担うホープとしてそれぞれ受賞し、今後の活躍が期待されるところである。

その他特別感謝状が、大作「迷路」の演出で中沢とおる氏、開幕公演の成功で片山覚自氏にそれぞれ贈られた。

芸振主催事業

初年度計画通り
無事終了

芸術文化基金による芸振主催事業として、県内の文化的事業として初めての試みが県下各地で催された。地域文化の活性化を目標に着実にそのスタートを切ったわけである。

公演種目や、日時、地元の受入れ態勢など検討を要する点はいくつかあるが、初年度としては十分な成果を挙げたものと思われる。開催地における実行委員会や関係者の文化活動への積極的な姿勢が成果につながったと考えられる。特に学校巡回公演は出演者側にもやりがいがあったと、その反応が高く評価され、開催地区における教育関係者、子ども達に好評であった。

地域文化活動促進事業である「文化キャラバン」は地域の文化祭との関係や、地方施設の不備な面が影響して盛り上がりに欠けたが、劇団つみ木座の出しものは質の高いものであった。　ファミリー芸術劇場については前号（芸振、No.66）で、２会場について紹介ずみであるので、宇佐会場についての記録を載せる。

●ファミリー芸術劇場　宇佐会場

10月27日　13:00　〈宇佐文化会館〉

出演団体　大分市少年少女合唱団・女性合唱団「道」
宇佐ＰＴＡママさんコーラス・宇佐市民合唱団

天候に恵まれ、時間前から観客の出足は好調、地元実行委員会のＰＲが行き届いていた。「道」に対する地元の期待は大きかったようだ。「道」、「少年少女合唱団」とも、レベルの高い合唱で、地元合唱団と共に、聴衆を魅了した。会場施設はさすがにすばらしく、照明、舞台装置とも、申し分なく、舞台効果でも会場を盛りあげた。ファミリー劇場３会場のうちでは最も成功した会場であった。入場者、約800（ほぼ満席）

	期日	会場	公演団体	入場者数
ファミリー芸術劇場	8月25日(日)	津久見市民会館	グループ　ＵＮＯ（演奏） 大分少年少女合唱団(コーラス)	300 人
	9月1日(日)	竹田文化会館	グループ　ＵＮＯ（演奏）	400
	10月27日(日)	宇佐文化会館	女声合唱団「道」（コーラス） 大分市少年少女合唱団(コーラス)	800
学校巡回公演	7月15日(月)	真玉町立真玉小学校 香々地町立香々地小学校	大分大学混声合唱団 コールレテイッセ	155 320
	〃	天瀬町中央公民館 大山町中央公民館	大分県洋舞踊協会	370 370
	7月16日(火)	国見町立伊美小学校 国東町立国東小学校	大分大学混声合唱団 コールレテイッセ	300 580
	〃	湯布院町中央公民館 野津原町中央公民館	大分県洋舞協会	280 380
	12月22日(日)	耶馬渓中学校体育館 山国町立福祉センター	大分県洋舞協会	
文化キャラバン	11月3日(日)	三重町中央公民館	劇団　「つみ木座」	350

第21回 芸術祭 ●
新人賞を受賞して

川下　博幸（演劇）

第二十一回大分県芸術祭で、「新人賞」を戴き、身に余る光栄です。今回の賞の背景には、私が微力であるにも拘わらず、「迷路」で主役をもらったのと同時に、作品の成功があったからだと思います。

私が演劇創造活動に接し、初めて舞台に立ったのが、第十四回大分県芸術祭の時でした。そこには、働く仲間がいて、創造する人間がいて、そして、その集団のエネルギーが多くの人達を感動させる。素晴らしいことだと思いました。その時の大きな感動は、今も心の底にあり、毎年の作品創造活動の、源になっていると言えます。

今回、賞を戴いたことは、これからの演劇創造活動の大きな励みに成り得ると共に、そのことはまた、大きな重圧にもなります。私自身、まだまだ未熟で、多くの課題を残しています。しかし、創造活動が人間を描き、そして、人間性の追求であることを確信し、その活動を通じ、身分自身も、成長していくことを信じ、これからも努力を重ねたいと思います。

（県民演劇制作協議会）

市町村文化活動の現状

津久見市文化協会

15年目を迎えた文化祭

文化の町への変貌のエネルギー

文化不毛の町から文化溢れる町へ

津久見市文化協会の現状

当市文化協会は昭和46年４月、参加団体22団体、会員数814名で発足いたしました。その後15年目に当る今60年には42団体、会員数1,500名と加入団体、会員数共に倍増し、内容の充実には見るべきものがあります。

元来当市はスポーツの町として認識され臼杵佐伯に比べて文化不毛の地という烙印を押されてきましたが、各団体の個性と力量を生かした、たゆみない活動と一人一人の精進研鑽が今日のすぐれた成果をもたらしたものであります。

『情操豊かな心を培(つちか)おう』という市民の底からの声は各地に湧然として興り、そのエネルギーは燎原の火の如く津久見市はまさに、スポーツの町と同時に文化の町へと変貌しようとしています。

本年で15回目を迎えた文化祭は毎年11月の第２土、日に開催されるが、各団体共１年間の成果と集大成を発表する好機としてとらえ、これに備えて充分鑑賞に堪える演芸と展示作品をを披露するため長期に亘(わた)り精根を傾けて努力している姿はすばらしいと思います。

各団体共市内の大会を持つことは勿論、県南三市と持ち廻りで県南大会を持ち、お互(たがい)に切嗟啄磨し合う状況であります。

当協会には無形文化財とも言うべき扇子踊保存会があります。その歴史は古く天正14年大友宗麟の時代、戦没将兵の慰霊供養のため始めたと伝えられています。

昭和50年には日本代表としてオーストリアの第５回国際民族舞踊大会に出場の栄誉に輝いて居ります。

協会としては速かに無形文化財としての指定を受け、連綿として続いた扇子踊の伝統を正しく継承したいと思います。

芸振企画の「ファミリー芸術劇場」が当市で開かれ音楽の公演をもって頂いた意義は深く同好の人に感銘を与えたが、入場料、日程、ＰＲの方法等多くの問題点を残し、今後この種の公演の研究課題としたいと思います。

文化活動はそれが活発であればある程、資金を必要とします。精神力だけでは文化水準の向上は無理のようです。県芸術文化基金の地方文化活動への支援、補助金を待つや誠に切なるものがあります。

（津久見市文化協会会長　　神田　信彦）

第21回 芸術祭

新人賞を受賞して

首藤　詔子（日本画）

脳腫瘍で二度にわたって手術を受けましたが、その後絵筆を握れた時の喜びは、忘れることのできない思い出です。命の尊さというものを実感し、これからは精一杯その時、その時を生きてゆきたいと思って三年たちました。また、今年は私が日本画の道に入って、丁度二十年目にもあたり、ひとつの節目の年でもありました。

此の度の新人賞受賞は、こんな時を迎えた私にとっては、嬉しい受賞であり、大変意義あることと考えています。

明日は絵が描けなくなっているかもしれないという思いが、時折、私を不安にしますが、この受賞を契機に「今を精一杯、生きてゆく」ということを新たに胸に刻んで、これからも努力していきたいと思います。

（県美協・日本画部委員・事務局委員）

れんさい

スバルと人（その8）

菅　久

離合集散は世の常というが、スバル会の出はいりは非常に多かった。たった一回でやめた人もあって顔も覚えてない人がいる。そんな中で三十、三十一年と二年間在籍して作品を発表した徳田宗忠氏は懐かしい人である。今年三月七十歳で他界、九月に別府国際観光会館で遺作展が開かれた。病弱で療養かたがた制作して春陽展に出品、戦後別府市でパレット会を結成してアマチュア画家の指導にもあたっていた。百点にのぼる遺作展の中には春陽展出品の五十号四十号などの他はすべて小品であったが、柔和な人柄を思わせる作風の中に芯のある構成とデッサン力そして光と色が輝いていた。も少し体力があればスバルの中心として活躍してほしかった人である。

徳田氏のいた三十・一年ごろは、スバル会の最盛期であった。会報によると、三十二年七月七日(日)にスバル総会が町村会館で開かれている。第十回記念スバル展開催についてが大きな議題であったが人事問題に揺れた。定刻になっても集まらない。やっと九名そろった中で、欠席者の中にI(アイ)会発足に参加した広瀬通秀、中条正一両氏から出された退会届を受理、小野一郎氏はI会をやめスバル一本で仕事をすることになったなど事務局から報告、そして団結して第十回展を成功させるよう話しあった。ところがその後岩尾秀樹、徳田宗忠、島川隆介、写真の幸米二、木村昌斗志、松原朝丸、コバト半平など写真部がスッポリと出てしまった。何が原因であったのかいまだに不明である。

結局その年の八月二十日から一週間トキハギャラリーで十周年記念スバル展が開かれたが、出品者は荒金透、市原康孝、江藤明、神田千里、菅久、菅玲子、古川栄、松岡定、矢岡勲、末光捨一（招待）、彫刻の岩男順、日本画の小野一郎、一人になった写真の内田弘、計十三人三十点である。大量の退会者を出しながらも、記念展にふさわしくポスター印刷、廃刊になったはずの機関誌「昂」を西洋紙一枚にタイプ印刷して第三号とし、目録と一緒に配った。内容は「私の絵のヨリドコロ」市原康孝、「処刑の行進」江藤明など出品作についての感想が主であったが油野誠一氏は出品作品のかわりに「最近の美術展より」と題して〝国際展〟〝版画展〟〝今日の美術展〟などのニュースを送ってきたので掲載した。その中に当時流行していたアンフォルメルのことについてふれているのが注目される。またスバル会が十年の歳月を経たことについて、「さて芸術の世界で一番大事な先天的素質の事も除けば、環境こそ大変大事なものと思います。それも既存の環境に自分を入れるという事ではなく、勿論そんな事も必要ですが、自分自身が環境を作って行くことだ……」と書いてきたことはスバル残党に大きな暗示を与えたと今でも思っている。スバル会はこのあと十一回十二回と二回展覧会を開くが翌三十五年に新グループ「前衛」の結成により自然消滅する。（次回は最終回、スバル会のまとめ）

（芸振常任理事）

お知らせ

芸振後援

新世紀群35周年記念展　9月3日～9月8日
　絵画サークル新世紀群　芸術会館
おおいた「薪能」　9月30日　大分県護国神社
　おおいた薪能実行委員会
大分大学リコーダーコンサート　12月1日
第11回定期演奏会　市町村会館
潮流展 '85　12月3日～12月8日
　潮流展
北原白秋生誕百周年の夕べ“からたちの花が咲いたよ”　12月11日
白秋の夕べ実行委員会　芸術会館
第34回高文連美術書道中央展　12月18日～12月22日
大分県高等学校文化連盟美術部　芸術会館

記　録　芸術会館1月の主な行事予定

〈美術館〉

浮世絵歌川派展　1月4日(土)～2月2日(日)
二宮秀夫遺作展　1月7日(土)～1月12日(日)
日本芸術写真作家協会九州公募展　1月14日(火)～1月19日(日)
二科会大分展　1月21日(火)～1月26日(日)
第37回大分県学校書道展　1月28日(火)～2月2日(日)

〈文化ホール〉

ウィーン・ヨハン・シュトラウス・カペレ　1月17日(金)
大分市少年少女合唱団第3回定期演奏会　1月19日(日)
エリザベト音楽大学「ピアノ音楽の夕べ」　1月21日(火)
ピアノ演奏グループ「O'未来」第1回演奏会　1月24日(金)
第5回能の美鑑賞シリーズ「宝生流」　1月26日(日)

発行所・大分市府内町県教育庁文化振興会議事務局＊印刷・㈱双林社＊題字・野田南雲